

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 2月 28日

事業所名 タートル体力運動能力開発ラボ TURTLE KIDS

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	二班に分かれ活動を行うようにしている。	・大人数となると若干の狭さを感じる。 ・人数増加によりもっと広くてもいいかとも思う また、来年度は拡張予定あり。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	・休みを取る際、パート同士でフォロー(可能な限り)するようにしている。	・活動は可能であるが、少しギリギリな状態。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		・活動や行動の流れ定着するよう工夫している。 ・お集り、製作部屋と体操部屋を明確に分けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・掃除、消毒は徹底して行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	・毎日のスタッフ間の情報交換を大切にしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・様々な研修に参加し、スキルアップを心掛けている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2		・事業所内用のアセスメントシートが無い為研修で配布された資料を参考に作成し活用していきたい
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		・定期的にスタッフ全員による会議を行い具体的な内容を設定する事が出来ている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		・システムを導入する事によりこまめに計画を閲覧出来支援に繋げる事が出来ている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・毎月、担当を変える事で様々な活動が行える。 ・月毎に立案担当者があるが、他の人の意見も柔軟に取り入れる事が出来、チームで動いている環境である。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・スタッフ間のグループLINEを活用し、活動の情報共有をしている。 ・朝の打ち合わせで役割分担を決めている。		

18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな気付きもその都度、報告するよう心掛けている ・活動後、気になった事を報告しあったり、記録を読みあったりして共有を図っている。 ・その日のうちに職員間で情報共有するよう話を頻繁に行っている。 	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員で行っている。 ・毎月職員会議を行い、支援の見直しを行いチーム一丸となって対応出来るよう努力している。 	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1			・コロナ禍で訪問は積極的に出来なかったがいつでも提供に応じられるようにしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3			・直接的な情報共有はされなかったが保育園や幼稚園を介し情報の提供は行った。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1			・こまめに連絡を取り合い連携を図っている。研修も率先して参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4			・コロナ禍の為、交流は控えているが終息したら計画していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	1			・可能な限り参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6				・SNSを活用しリアルタイムで閲覧できるシステムを導入し共通認識を持てるようにしている ・送迎時の対話や記録にて共有。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1			・計画をしていたがコロナ禍と言う事もあり断念。書面にて情報提供を行った	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6				・コロナ禍と言う事もあり定期的な実施を行う事は難しかったが送迎時や電話・HUG等でお話を伺うよう心掛けていた。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5				・5月に実施。次年度も行いたい。年に1回しか行わなかった為、次年度は状況次第で2回出来たらと思う。 ・開催後の報告書を保護者様に行わなかった為、周知されていない事が判明。次年度は報告書を作成していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6				・いつでも対応出来るよう職員間でも連携を図り、小さな気付きも情報共有し対応を図れるようにしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4				・HUG導入により保護者様からの発信が減少HUGを身近な連絡ルーツと認識してもらえるよう工夫していきたい。

40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		
----	------------------------------------	---	---	--	--

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			・火災訓練・避難経路確認等実施したが、実施報告を保護者様に通達していなかった為、周知不足となってしまった。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			・事前に情報を頂き共通認識している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		・1年毎に情報提供を頂いている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3		・起こった案件がヒヤリに結び付かないようで報告書が少なかった。ヒヤリハットの認知不足が否めない。ヒヤリハットについて研修を行って行きたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1		